

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

冬だというのに、ここのところなんとも暖かい日が続いている。程よい陽光が窓辺に差し込んできて、心地よい。目を閉じると、私の中で何かが目覚めるような感じさえしてくる。そんなとき、ふと我に返ると、時間とはなんと無慈悲なのか。じきに日が暮れ、私からこの心地よさを奪い去っていつてしまう。そんな思いが頭をめぐる。その後、今度はこの「一瞬」を十分に味わうために私は時間にしがみつこうとする。こんなことが近頃多くなった。この状態に陥るのは何も冬の最中とはいえ、暖かい日が続いているためではない。これは私の「感覚」の問題なのである。年を()るごとに時間の感覚は変わっている。以前より確実に一日が早く終わり、矢のように一年が過ぎ去っていくようになった。今年、元旦を迎えても、昨年①の正月から「一年」という時が経過したようには感じることができなかった。これにはあたかも時計の針をくるわされたような気がした。何者かによるトリックであると思えば、それから脱け出す術はないものかと思った。

子ども時代、一年が果てしなく長く感じられたあのころ。あの感覚を取り戻したいとひそかに願うのは私だけであろうか。

(1) 本文中の()にあてはまる漢字一字を、文中から探し答えなさい。

(2) ①線部「一年」とは、どのようなことを表しているか。あとのア～ウから適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」の時間感覚でも三六五日
- イ 冬至以降から換算した一年
- ウ 一年という客観的な時間

(3) ②線部「私だけであろうか」とあるが、この部分に含まれている意味として適切なものを、あとのア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 多くの人が子ども時代の時間の感覚を取り戻したいと願っているはずだ。

イ 私だけが世間の人々と違い、時間による束縛から解き放たれたいと強く願っているだろう。

ウ 私だけが子ども時代の時間の感覚を取り戻したいのだろうか
と疑問に思う。

エ 私以外にも時間の感覚が変化している人間がいるのかと強く
疑問に思っている。

(4) この文章を通して筆者が説明しようとしていることを「年」「時間」「経過」を用いて四十文字以内で答えなさい。

(5) この文章で述べられている内容として正しいものには○、誤っているものには×で答えなさい。

- ア 「私」は時の流れを以前より早くなったと感じている。
- イ 時間の感覚は人により異なってくるものである。
- ウ 「私」の時間の感覚の変化は、冬至という時節によるものである。
- エ 以前に比べ、「私」は「一年」という時を長く感じている。
- オ 「暖かい陽光が差し込む時」は、「私」にとって今も昔も「一瞬」の出来事である。

ア			
イ			
ウ			
エ			
オ			